

小さな酪農村の 心の通ラインバウンド

～鶴居村版国際交流を考える～

NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会

事務局長 服部 政人

これまで三回の寄稿で、鶴居村への移住、酪農の仕事から農村の暮らしや農村スタイルにはまっぴい様子、ターニングポイントとなった観光事業など、この村の人々が普遍的に生活している農村の生活が暮らし旅となり、「食と観光」としてつながっていくことをご紹介させていただきました。

最終回は、私たち家族がひょんなことから始めた最高に素敵な世界の若者との交流と、それがきっかけで東アジア、東南アジアとのインバウンド事業の始まりやコロナ禍でも一時的な停滞にも負けなかった滞在型観光の魅力を発信してこれたことをご紹介します。

丘の上は、世界とつながる素敵な扉

丘の上でファームレストランを切り盛りする家内のテーマは、地場産の食材でおしゃれな世界の料理を創ること。食を通じて世界の豊かな暮らしをおすす分け

したい。それには色々な国のお料理を勉強したい。特に西洋のお母さんがつくる家庭料理やハーブづくりを学びたい、と奮闘していました。そんな折、様々な国々の方々と交流できる素敵なお話しを聞きました。世界中の青年たちがボランティアとしてお手伝いしながら、ひとつ屋根の下で暮らし国際交流の仕組みWOW(ウーフ)を知り、すぐさまホスト登録しました。二三年前、初めて我が家に来てくれたのは、イギリスの好青年ジム君。日本語が堪能でとても紳士的で本当の家族のように接してくれました。外国人を迎え入れ家族のように暮らす我が家のスタイルができた瞬間です。あれから、アメリカ大陸、ヨーロッパ、オセアニアにアジア圏と様々な国の青年たちがこの丘の上で生活を共にしました。色々なハプニングも笑って過ごせる貴重な体験です。延べ一〇〇〇人を超え、私たち家族、スタッフの素敵なライフワークとなりました。

笑顔と身振り手振り、

言葉を越えた国際交流

夕陽と朝日を見て、丘陵地帯を散歩し、ゆっくりとミルク料理を食べていただくのんびり過ごす旅の提供は、後の長期滞在型観光づくりのきっかけとなりました。これには、海外ボランティアも大活躍です。笑顔と身振り手振り、言葉を越えた交流が生まれました。そしてこんな田舎で青い目の若者たちと交流するという、考えもしなかった驚きがお客様に大変好評でした。まさにここならではの国際交流型観光のスタートです。いつの間にか、自然に一つ屋根の下のファミリーになりました。言わば一〇〇〇人の子供たちが世界中にいるのです。かなり痛快な気持ちです。現在では二〇％程が外国からのお客様となり、当時の若者たちがオンラインを活用して色々と世界に発信してくれました。今でいうロコミの世界版です

ね。親孝行な子供たちからの素敵なプレゼントに感謝感激です。

ここにしかないインバウンドの ヒントが見えた瞬間

こんな環境で暮らす私は、鶴居村の特性やヨーロッパのようなバカンスの必要性などを熱く論議していました。宿泊の外国人のお客様や我が家のボランティアを見て感じることは、しっかり自分の時間で過ごしていること。雨の日でも歩いて四km先の町まで散策し、暖炉の横で読書を楽しむ。ここならではの、ここにしかない観光のヒントが見えてきました。私たちはのんびり、自分ペースで過ごす旅、長期滞在型観光が、この地にふさわしいと考えます。「小さな村で暮らす旅」が重要と常感じていました。酪農村の風景、ハーブやガーデンとの暮らし、規模にとらわれないインバウンドビジネスのヒントを得ました。地域の方々と共有し

ながら、ここならではのインバウンドを広めることができると確信しました。鶴居村とは、今後、益々増加すると予想される訪日外国人観光客受け入れとして、長期滞在型観光を想定した宿泊施設とガイド業、飲食店との連携を更に進める。鶴居村商工会とは、乳製品を用いた和食メニューの開発と普及など、多種多様な形で世界中の方々におもてなしをしたいと日々、切磋琢磨しながら取り組んでいます。

コロナ禍を越えた台湾との

友好観光に感謝

ライフワークとして取り組んできたインバウンドを進めるにあたり、鶴居村の観光資源「タンチョウ・湿原」と交流による暮らしをメインとしたインバウンドとして、新しい観光地を探している台湾リピーターを中心に、農村で暮らすような旅をメインにした農泊（農山漁村での



台湾と友好観光協定

長期滞在型観光を進めました。

サイクルツーリズムとして弟子屈町との広域連携によるインバウンド事業が実り、平成三〇年、中華民国自転車騎士協会との観光友好協定を締結しました。令和二年度より、台湾からのサイクル関係者を招聘し、交流観光を進めています。新型コロナウイルスの影響によるインバウンド事業の方向性も見えづらい状況ですが、一過性で無く継続事業として取

り組んだ結果、今年度、三年ぶりに台湾で交流することができました。また、家内が運営するハートンツリーは、令和元年から鶴居の魅力や観光情報の発信拠点として、台湾台北市にオフィスを開設しています。大手企業とは違う人との交流から進めるインバウンドとして取り組んでいます。インターネットと違い、台湾の人たちと直接会って鶴居を紹介すること。地道でもリアルな取り組みが自分たちに会っているとワクワクしています。

鶴居村はベトナム人にとっての 第二の故郷

同時期に在留・インバウンド共に関心が高いベトナム市場の成長性を感じ、鶴居村観光協会としてH・I・Sホーチミン支店のスタッフによる鶴居村研修受け入れや、個人的にもベトナム人留学生の受け入れを積極的に取り組んできました。コロナ禍で帰国もままならない我が家での



世界からボランティア

ホームステイ体験の留学生たちは「鶴居村の景色はベトナムにそっくり」と口々にそう言ってくれました。

平成三〇年からの三年間にわたる取り組みで一定の成果を挙げてきたと感じています。新型コロナウイルス感染症の影響で国外からの誘客が難しいため、在日ベトナム人にターゲットを絞ったPRとして、ベトナム語で鶴居村を紹介するフォトブックも作成しPRを



ベトナムの結婚式参加

行いました。まだまだ地方へのインバウンドは少ないベトナムですが、小さな村で暮らす旅が、日本での故郷になったとそう信じています。その時の留学生が今年の二月に結婚しました。もちろん夫婦でウエディングパーティーに出席のため、笑顔でハノイへ行きました。

外国人と地域の人が

仲良くなる「こと」が一番

四回にわたり、お読みいただきありがとうございます。あつという間の三〇年でしたが、寄稿をとおして色々と思い出す度に、本当に色々なことに携わってきたなあ〜としみじみです。また鶴居村に暮らせてよかった。丘の上で家族とともに奮闘して良かったです。道東にある小さな村ですが、村のポテンシャルをすごく感じています。日本の人口は減っていく一方、交流人口が大事です。世界中の人と交流することを、率先してきたことはうれしい限りです。

私には観光の夢が三つあります。一つは欧米のバカンスのようなサステイナブルなのんびり旅を進めたいです。例えば散歩や読書やおしゃべりなど、楽しめる旅づくりを作っていきたいです。

二つ目は、長期滞在型観光「農泊」で

す。「小さな村で暮らすような旅」を作りたいと思っています。

三つ目はもちろんインバウンド。その人にとって「一生のうち絶対に一回は行きたい、鶴居村！」と思ってもらえる場所にしたいです。欧米はもちろんですが、アジアを中心に、ベトナムやタイ、そして台湾などを中心にこれからも交流型イ

ンバウンドを進めていきます。

人との出会いは「一期一会」です。私は人が好きなので、誰とでも向き合いたいと思っています。百聞は一見に如かず。ぜひ、鶴居村に来て暮らすような旅を体感して下さい。多くの皆様とお話できる日を楽しみにしております。

服部政人さん

1959年大阪府生まれ。

平成3年に大阪の民間企業を退職し、家族4人で北海道鶴居村に移住。

グリーンツーリズム組織「鶴居村あぐりねっどわーく」を設立、初代代表。

鶴居村観光協会事務局長を務める、自称イケてるシルバーエイジ。

